

◎ ペレット関連情報

■ (株) 渡会電機土木 (山形)、経産省の「平成 28 年度再生可能エネルギー事業者支援事業費補助金」の新規事業 3 次締切分の補助事業者に決定。事業名は「庄内工場へのバイオマス燃料製造設備設置事業」で、地域で発生する伐採木を原料とした木質ペレット製造設備を設置する。平成 28 年度中完了予定【(一社) 環境共創イニシアチブ：2016/10/04、環境ビジネスオンライン：2016/10/05、】

https://sii.or.jp/re_energy28/decision.html

<https://www.kankyo-business.jp/news/013471.php>

■イーレックス (株) (東京)、福岡県豊前市で検討しているバイオマス発電事業の本格化に伴い、9 月末に設立した準備会社「豊前ニューエナジー合同会社」に対し 45 億円の増資引受を行うことを決議。今回の増資は準備会社で今後想定される各種契約に先立ち、あらかじめ資本の増強を行うもの。同発電所は福岡県豊前市の九州高圧コンクリート工業 (株) (福岡) 敷地内に建設される出力約 7.5 万 kW のもので、主燃料は PKS および木質ペレット計約 30 万 t/年。2017 年 1 月着工で、2019 年 10 月商業運転開始予定【同社 HP 2016/10/14】

<https://www.erec.co.jp/ir/>

■サンポット (株) (岩手)、同社製ペレットストーブ 3 機種 (FFP-811DF、FFP-7202TS、FFP-702DF) が環境省 L2-Tech 認証 (2016 年度夏) を取得したと発表。同制度は、エネルギー起源二酸化炭素の排出削減に最大の効果をもたらす先導的 (Leading) な低炭素技術 (Low-carbon Technology) = L2-Tech の普及促進のため、各設備・機器等の最高水準を L2-Tech 水準として開示するとともに、L2-Tech 水準を満たすメーカー製品に対して環境省が認証を行うもの。環境省認証製品の募集を夏と冬に実施し、認証を行う。「2016 年度冬版 L2-Tech 認証製品一覧 (仮称)」については、来年 1 月頃に対象製品の公募、審査を経て 3 月頃に公表する予定【サンポット (株)：2016/10/14、環境省：2016/10/03、OSR 第 250 号：2016/10/26】

<http://www.sunpot.co.jp/news/news.php?eid=00072&cate=2>

<http://www.env.go.jp/press/103071.html>

■NPO 法人日本スターリングエンジン普及協会 (東京)、「スターリングエンジン」の本格

普及を図り、長野県上田市で開催の「上田地域産業展」に出展（10月21～22日）。19世紀初めに英国で考案された同エンジンは、薪や木質ペレットといったバイオマスが活用でき、工場の廃熱も熱源にできるのが特徴。産業展には、芝浦工業大（東京）工学部の高見弘教授が燃焼炉に木質ペレットを自動供給する出力1kWのスターリングエンジンと600Wの太陽光パネルを組み合わせた軽トラックを出展し、活用の可能性を探った【信毎 Web：2016/10/19】

<http://www.shinmai.co.jp/news/nagano/20161019/KT161018BSI090007000.php>

■藤田建設工業（株）（福島）、木質ペレットを利用する木質ガス化熱電併給（CHP）システムを開発したドイツ・ノルトライン・ウェストファーレン（NRW）州のエントラーデエネルギーシステム社と発電機の普及に向けた共同研究の覚書を締結（10月18日）。同社は関連会社がストーブ用の燃料として木質ペレットを製造販売しており、1年ほど前から木質ペレットの CHP ビジネスの展開を目指してきた。発電機は出力25kW、縦2.4m×横6m×高さ2.6mのコンテナに収まり、複数をつなげて使うことも可能。移動しやすく山間部などでの需要が期待されるという。同社は年度内にも福島県西郷村の温泉施設の電源に発電機を導入。システムは欧州産の木材を燃料に使う前提であるため、システムに適合した国産材のペレットの開発とコストダウン等をテーマに、福島大の協力も得ながら研究する【福島民報：2016/10/18、河北新報：2016/10/19】

<http://www.minpo.jp/news/detail/2016101835617>

http://www.kahoku.co.jp/tohokunews/201610/20161019_62025.html

■あわら三国木質バイオマスエネルギー事業協議会（福井）、9月に開催した「バイオマスカンファレンス 2016」で3か年に及んだ調査・実証事業を総括、2017年2月には同協議会が母体となって熱供給事業の新会社を設立することを明らかに。スギ、ヒノキ、広葉樹等の未利用材を坂井森林組合の「WOOD バイオマスセンターさかい」が木質チップやペレット、薪に加工し、地元の温泉旅館やホテル等に供給する。各施設には木質ボイラや薪・ペレットストーブの導入を促す。新会社がボイラを所有し、設置やメンテナンス、燃料供給等を一括して手掛けることで、需要者が熱を利用しやすい仕組みをつくる。運営ノウハウを蓄積してマニュアル化し、地域熱供給事業に関心を持つ事業者へ提供することも検討する【J-FIC ニュース：2016/10/21、林政ニュース第542号：2016/10/12】

<http://www.j-fic.com/news/page/2>

■新潟県十日町市、農水省等7府省が共同で推進する「バイオマス産業都市」の一つに。今春同市が策定した2025年度までの10年間を見据えたバイオマス産業都市構想では、年間30万MWが見込まれる37年度の市内の総電力量のうち2割に当たる6万MWをバイオマス発電で賄うことになっている。具体的には栽培で使った後に廃棄するナメコ菌床を

固形燃料のペレットに加工し、ボイラの燃料に利用する。加工施設は約 3 億円を投じて整備し、2019 年度中に運転を始める計画。水を多く含みペレットにしにくいエノキの菌床は、生ごみ等と一緒に発酵してバイオガスに仕上げ、発電に利用する。事業費は約 18 億円で、2020 年度にガス化施設の運転を目指す【産経ニュース：2016/10/27】

<http://www.sankei.com/region/news/161027/rgn1610270030-n1.html>

■環境省、地域低炭素投資促進ファンド事業に係る出資案件について、「宮崎県串間市における木質バイオマス（ガス化）発電事業」を行う（株）洗陽電機（兵庫）らに決定したと発表。出資額は 3.9 億円。同事業は宮崎県串間市で地元企業等と共同で未利用バイオマス資源を活用した小規模な木質バイオマス（ガス化）熱電併給事業（1,940kW）を行うもの。発電時の排熱や木材加工時の端材処理により発生する熱をバイナリー発電や燃料となる木質ペレット加工時の乾燥に活用すること、加えて木質ペレットをガス化することでより高効率かつ安定的な事業を目指す。プロジェクトに対し洗陽電機、南国殖産（鹿児島）、サンシャインブルータワー（宮崎）、串間森林建設（同）らも合計で 4 億 9 百万円出資。また融資はシンジケートローンにより 19 億円を調達予定。稼働後は SPC のくしま木質バイオマスが発電設備の運転・管理を担当する【環境省：2016/10/28、スマートジャパン：2016/11/02】

<http://www.env.go.jp/press/103156.html>

<http://www.itmedia.co.jp/smartjapan/articles/1611/02/news032.html>

■栃木県茂木町、九石（さざらし）の有機物リサイクルセンター「美土里館」内にペレット製造設備を整備する等、町産材を原料としたペレット燃料の製造、利用を進める取り組みを 2017 年度中に本格化。有識者や農・林業関係者らでつくる町再生可能エネルギー検討委員会の第 1 回会合が 11 月 2 日に開かれ、ペレット燃料の利用に向けて成分配合や利用コストの計算等について協議していくことを決定。製造施設の生産量は年間 200～300t。2017 年 6 月着工、同年 11 月稼働を目指す【下野新聞：2016/11/10】

<http://www.shimotsuke.co.jp/news/tochigi/politics/news/20161110/2505471>

■イーレックス（株）（東京）、今年 10 月に同社が設立した「豊前ニューエナジー合同会社」に九電みらいエナジー（株）（福岡）と（株）九電工（福岡）が出資参画すると発表。出資割合はイーレックスが 65%、九電みらいが 27%、九電工が 8%の予定。今後は三社共同で福岡県豊前市での木質バイオマス発電事業（74,950kW）に着手する。主にイーレックスが燃料調達、九電みらいが技術管理を担当。九電工は発電所の電気設備工事を担当するなど、各社の強みを活かした事業運営を図る【同社：2016/11/10】

<https://www.erec.co.jp/ir/>

※ OSR・・・オンサイト・レポートの略